

告知板

全国大会出場の快挙!!! 南中学校サッカー部

札幌市で開催された「全道中学校サッカー大会」で、管内を代表して出場した南中学校サッカー部が準優勝し、滋賀県で開催された全国大会に出場しました。



稚内スイミングクラブ 山崎さん 蛭子君

江別市で開催された「2011JSCA北海道ブロック夏季水泳競技大会」に出場した稚内スイミングクラブ所属の山崎純佳さん(中央小6年)が11歳~12歳背泳ぎ50m、蛭子夢生君(南中1年)は、バタフライ50mで、全国大会出場の標準記録を突破し、10月に開催される全国大会に出場します。



山崎さん 蛭子君

射撃協会の佐藤(堅)さん 佐藤(由)さん

5月から道内各地を転戦して行われた、クレー射撃の予選を勝ち抜き、佐藤堅司さんは4年連続、佐藤由紀雄さんは一昨年に引き続き2回目の北海道代表に輝き、10月(クレー射撃は9月11日から)山口県で開催される国民体育大会に出場します。



佐藤堅司さん 佐藤由紀雄さん

加盟団体の普及及び競技力の向上と、地域の経済の活性化を図る目的で発足した、稚内市スポーツ合宿誘致推進協議会発足2年目を迎え、今年も、夏季(7~9月)を中心に、高校4チーム、大学10チーム、実業団2チーム、プロ1チームの合計17団体が稚内合宿を実施及び予約されています。

ちなみに合宿期間の中で、バスケットボールの神奈川・関西学園両大学と札幌市役所、実業団連盟審判部の4団体は、8月6日の「稚内みなと南極まつり」と日程が重なったことから、「南極おどり」に参加するなど、市民との交流と最北の夏を楽しんでいました。

また、ほとんどの団体が、練習のオフを利用して、市内観光を楽しんだり、お土産店での買い物をする姿も多く見られました。

【実績】

- ①旭川南高校バスケットボール部 (18人) 7月30日~8月2日(3泊4日) 延54人
- ②札幌清田高校バスケットボール部 (17人) 8月1日~5日(4泊5日) 延68人
- ③神奈川大学バスケットボール部 (25人) 8月4日~16日(12泊13日) 延300人
- ④関西学園大学バスケットボール部 (37人) 8月4日~16日(12泊13日) 延444人



神奈川・関西バスケットボール練習ゲーム

- ⑤札幌市役所バスケットボール部 (11人) 8月4日~7日(3泊4日) 延33人
- ⑥北海道実業団バスケットボール連盟審判員 (12人) 8月5日~7日(2泊3日) 延24人
- ⑦札幌創成高校野球部 (38人) 8月5日~8日(3泊4日) 延114人
- ⑧札幌大学バスケットボール部 (18人) 8月9日~11日(2泊3日) 延36人
- ⑨北翔大学バドミントン部 (55人) 8月11日~14日(3泊4日) 延165人



北翔大学バドミントン

合宿の里わっかない 今年度の実績および予約

- ⑩レバンガ北海道 (12人) 【旧レラカムイ：プロバスケットボール】 8月11日~17日(6泊7日) 延72人



レバンガ北海道(バスケットボールクリニック)

- ⑪北海学園大学バレーボール部 (15人) 8月16日~20日(4泊5日) 延60人



北海学園バレーボール

- ⑫北海学園大学バドミントン部 (24人) 8月16日~19日(3泊4日) 延72人

【予定】

- ①北翔大学バレーボール部 (26人) 9月1日~4日(3泊4日) 延78人
- ②北海学園大学バスケットボール部 (17人) 9月7日~10日(3泊4日) 延51人
- ③北海道栄高校剣道部 (26人) 9月16日~19日(3泊4日) 延78人
- ④札幌大学バレーボール部 (16人) 9月16日~19日(3泊4日) 延48人
- ⑤北海学園大学卓球部 (30人) H24年3月中旬(4泊5日) 延120人
- ⑥札幌大学バスケットボール部 (20人) H24年3月中旬(5泊6日) 延100人



ふあめもい



- ① 第63回 道民バスケットボール大会 【7月16~18日(土~月) 総合、市、緑体育館】
- ② 第66回 国民体育大会軟式野球北海道大会 【7月29日~8月1日(金~月) 大沼、若葉、市営球場】
- ③ 第10回 全国社会人9人制 バレーボール優勝大会北海道予選 【8月21日(日) 総合体育館】

一口メモ

力士の下がり

力士が取り組みのときにまわしの下からぶらさげている「下がり」。もともと力士は現在でいう化粧まわしのようなものをつけて相撲を取っていましたが、あまりにも邪魔だったため、現在のように簡略化されたものになったようです。

《スポーツの雑学集から引用》

われらスポーツ家族の輪



えびこけんじ (敬称略) 17 蛭子憲治さん一家

家族でスポーツに取り組み、楽しんでるスポーツ家族の輪をつないでまいります。今号では、前号の「杉本博史」さんから紹介のあった「蛭子憲治さん一家」です。

■憲治(けんじ) 幼稚園のころから高校まで剣道一筋で、小学六年の時に全国大会に出場するほどの腕前で、現在は竹刀をバットにかえて社会人野球チームに所属しています。

■妻・あけみ 学生のころは、スポーツと無縁の生活でしたが子どもたちが水泳を始めたことがきっかけとなり、今では水泳少年団指導者として子どもたちと水泳を楽しんでいます。

■長女・遥馨(はるか) 稚内高校二年生。小学校一年生から水泳少年団に所属して、全道大会では常に上位入賞する力強い泳ぎで、弟たちの憧れのお姉さんです。

■長男・夢生(ゆう) 南中学校一年生。姉に憧れ幼稚園のころから水泳を始めて、来月には二回目となる全国大会出場を控えており、全国優勝を狙っています。

■次男・永愛(とあ) 南小学校五年生。兄妹の影響を受け小学校一年生から水泳少年団に所属し、全道大会に出場するまでに成長するも、兄に追いつくことを目標に頑張っています。

■憲治さんからのコメント 子どもたちの泳ぐ姿を見るのが、楽しみの一つです。来月の全国大会の応援には行きませんが、精一杯頑張ってください。